

きむら しょうのすけ

16代 木村 庄之助

嘉永2年（1849）～明治45年（1912）

吉田船町（現 市内船町）出身



木村庄之助は、9歳の頃から土俵に上り行司の小役を務め、その後、江戸で本格的な修行に励み、文久3年（1863）、13歳で初めて本場所の行司を務めた。

明治30年（1897）、49歳で行司最高位である木村庄之助を襲名。東京両国に国技館が完成し、人気力士が活躍した明治後期の相撲界黄金時代には、庄之助自身も全盛期を迎え、『東梅ヶ谷、西常陸山、中をとりもつ庄之助』とまでうたわれ、名行司として全国に知られた。市内東脇四丁目の法華寺には大口喜六きごろう揮毫による顕彰碑がある。

明治後期、相撲黄金時代の最高位行司